平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	道路橋梁維持補修事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	防災対策	(5)主担当者区分		係長
	施策		(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		道路法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	全ての利用者が、安全かつ快適に通行、利用できる道路及び付属施設の維持管理業務（町内一円）		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010　一般会計	予算科目	7　款	2　項	1　目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	73,621	72,047	58,755	35,827	61,553
	事業費等		千円	62,176	60,948	47,742	24,814	50,540
	財源内訳	国支出金	千円	10,230	10,219	9,520	0	0
		県支出金	千円					
		地方債	千円	19,700	11,900	7,000	0	0
		その他	千円	4,650	4,461	5,034	4,664	4,664
		一般財源	千円	27,596	34,368	26,188	20,150	45,876
	人件費		千円×人役	11,445	11,099	11,013	11,013	11,013
		正規職員	千円×人役	6,160 × 1.80	5,968 × 1.80	5,920 × 1.80	5,920 × 1.80	5,920 × 1.80
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 1.00	357 × 1.00	357 × 1.00	357 × 1.00	357 × 1.00
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
巡回及び住民からの通報等をもとに、危険箇所及び補修が必要な箇所を補修業務発注・工事発注する。	工事発注数	件		41			32	
	補修業務発注数	件		13			14	

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
傷んだ道路等の修繕が遅れ事故が発生した。	事故発生数	件	0	1		0	2	

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い全ての利用者及び住民の生活に直接つながるものである。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い全ての利用者及び住民の生活に直接つながるものであり、ニーズも高い。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	道路の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	道路の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、行政主体で行うことが望ましい。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	道路の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、必ず必要な事業である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	道路の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、必ず必要な事業である。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	職員で作業できるところは、職員で行うことによりコストの削減を図れる。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	道路、橋梁ともに安全は不可欠で不備の早期発見、改善に必要な業務である。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	舗装を少しでも長寿命化できるようクラックを早期補修する必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	公園施設管理事務		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5)主担当者区分		主任
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		都市公園法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	公園緑化保全目的とする植栽管理業務委託・施設点検（池・トイレ他）の実施及び公園の巡回実施		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010　一般会計	予算科目	7　款	4　項	4　目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	55,270	59,508	59,516	46,746	55,986
	事業費等		千円	50,092	54,484	54,530	41,760	51,000
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円	359	395	959	472	472
		一般財源	千円	49,733	54,089	53,571	41,288	50,528
	人件費		千円×人役	5,178	5,024	4,986	4,986	4,986
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.80	5,968 × 0.80	5,920 × 0.80	5,920 × 0.80	5,920 × 0.80
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 × 0.70	357 × 0.70	357 × 0.70	357 × 0.70	357 × 0.70
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
定期的な巡回を行い、安全上の不備を早期に発見し解消していくことを目指す。	業務委託数	件		10			24	

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
概ね快適な公園の維持管理ができたが、樹木による事故があった。	公園事故（植栽等）	件	0	2		0	1	

4. 評価

		評　価	理由	
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い全ての利用者が安心及び快適につながるものである。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い全ての利用者が安心及び快適につながるものであり、ニーズも高い。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	A. 実施済み・できない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	適正に、公園の状況を判断した上で公園整備を進めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	公園は町民全体のものであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、必ず必要な事業である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、必ず必要な事業である。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	職員で作業できるところは、職員で行うことによりコストの削減を図れる。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	公園の安全は不可欠で不備の早期発見、改善に必要な業務である。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	樹木管理、トイレ管理を継続的に実施していく必要がある。また、公園の低木等の樹勢回復に努めることが必要である。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	野渡・橋戸樋管管理事務事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	防災対策	(5)主担当者区分		主事
	施策	防災活動の支援	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		河川法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	排水区域内の安全を確保するため、野渡樋管の適正な維持管理を行う。 ①渡良瀬川増水時の樋管操作委託（水位の監視業務・水門開閉業務。 ②樋管排水機場の保守点検業務。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010　一般会計	予算科目	7　款	3　項	1　目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	2,475	3,927	5,611	2,242	2,289
	事業費等		千円	1,859	3,330	5,019	1,650	1,697
	財源内訳	国支出金	千円	201	200	205	197	197
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	1,658	3,130	4,814	1,453	1,500
	人件費		千円×人役	616	597	592	592	592
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
異常気象時における安全を確保する。ゲリラ豪雨、台風等の降雨時の巡回を随時実施する。	保守点検	回	9	9	100.0	9	9	100.0
	水門操作	回	0	0				

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
定期的な巡回、またはすばやい対応を行い、安全上の不備を早期発見、解消していく。	保守点検	回	9	9	100.0	9	9	100.0

4. 評価

		評　価	理由	
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	B. 一部結びつく		防災対策を担う重要なファクターであるため、総合計画施策分野の「防災対策」に結びつくものと考える。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である		地域の防災に関わるものであるため、適正に管理していくことが防災対策の推進につながる。近年の異常気象時の降水量は増加している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい		地域の防災に関わるものであるため、地域と連携しながら適性に管理していく。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい		地域の防災に関わるものであり、すでに地元の方と連携して事業を行っているため。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている		地域全体の防災に関わるものであるため適正に公平性が保たれている。また国庫委託金について精査の上委託契約を行っている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である		地域全体の防災に関わるものであるため適正に公平性が保たれている。また国庫委託金について精査の上委託契約を行っている。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない		地域の防災に関わるものであるため、適正に管理していくことが防災対策の推進につながる。近年の異常気象時の降水量は増加している。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない		地域の防災に関わるものであるため、適正に管理していくことが防災対策の推進につながる。近年の異常気象時の降水量は増加している。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	災害時に備え、日頃から委託者との密な連絡調整を図っていきたい。

（2）評価・今後の方針		評　価	今後の方向性
1次評価	担当係長	C. 事業継続	ゲリラ豪雨等に対する安全確保に必要な業務である。
2次評価	所属長	C. 事業継続	生命・財産を守る施設であるため、定期的な管理を継続する必要がある。
3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	道路除雪事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	防災対策	(5)主担当者区分		主事
	施策	防災活動の支援	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		道路法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全かつ快適に通行・利用できる道路の維持管理業務（町内一円）で降雪時に道路の積雪状況をみて融雪剤散布・除雪作業の実施、業者への依頼及び職員等による融雪剤の散布を実施。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	1 目
事業費	区分	単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
	コスト総額	千円	1,075	436	122	257	254
	事業費等	千円	916	281	0	103	100
	財源内訳 国支出金	千円					
	財源内訳 県支出金	千円					
	財源内訳 地方債	千円					
	財源内訳 その他	千円					
	財源内訳 一般財源	千円	916	281	0	103	100
	人件費	千円×人役	159	155	122	154	154
	正規職員	千円×人役	6,160 × 0.02	5,968 × 0.02	5,920 × 0.02	5,920 × 0.02	5,920 × 0.02
	正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.10	357 × 0.10	357 × 0.01	357 × 0.10	357 × 0.10
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
降雪時の危険箇所の適正把握をするための巡回等の実施。	降雪時の巡回	回		4			1	

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
降雪時に巡回、またはすばやい対応を行い、危険箇所を早期発見、解消していく。	融雪剤の散布	回		4			1	
	除雪	回		4			0	

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく	理由	積雪時のスリップ事故等を防ぐための事業であり、必ず必要であると思われる。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	積雪時のスリップ事故等を防ぐための事業であり、町民のニーズに即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	道路の安全確保という観点から、公共性が高く行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	緊急的かつ公共的な事業であり現状が望ましい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	受益者は道路利用者という点で極めて公平性は高いと思われる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	受益者は道路利用者という点で妥当であると思われる。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	積雪時のスリップ事故等を防ぐための事業であり、必ず必要であると思われる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	積雪時のスリップ事故等を防ぐための事業であり、必ず必要であり、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	災害時に備え、日頃から委託者との密な連絡調整を図っていきたい。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	降雪時の安全確保の観点から必要な事業と思われる。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	交通の安全確保のため、一定の積雪があった場合、幹線道路などを中心に実施する必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	公園遊具管理事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5)主担当者区分		主事
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		遊具の安全に関する基準			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全かつ快適に過ごせる公園の施設の維持管理業務（町内一円公園） ①遊具点検業務委託の発注（毎年） ②異常発生時の修繕工事発注（点検後異常の有無で年次計画を策定していく） ③異常・不具合発見のための巡回		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	4 項	4 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	8,851	21,760	11,771	4,892	4,892
	事業費等		千円	8,235	21,163	11,179	4,300	4,300
	財源内訳	国支出金	千円		8,000	1,500		
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	8,235	13,163	9,679	4,300	4,300
	人件費		千円×人役	616	597	592	592	592
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
公園の巡回を行い随時補修又は計画的な補修工事を実施	修繕工事	件		8			10	
	遊具塗装工事	件		0			0	

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
公園の巡回を行い、遊具等の事故を未然に防ぐ	遊具等の事故	件	0	0		0	0	

4. 評価

		評　価	理由	
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく		総合計画に位置づけられた事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である		事業の実施に伴い全ての利用者が安心及び快適につながるものであり、ニーズも高い。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	A. 実施済み・できない		公園管理上の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい		統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている		適正に、施設の状況を判断した上で全ての利用者が快適に利用できるよう公園遊具施設整備を進めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である		公園は町民全体のものであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない		事業の実施に伴い全ての利用者が安心及び快適につながるものであり、ニーズも高い。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない		事業の実施に伴い全ての利用者が安心及び快適につながるものであり、ニーズも高く、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	公園施設の塗装をシルバーに委託するなどしてコストの削減をはかる。

（2）評価・今後の方針		評　価	今後の方向性
1次評価	担当係長	C. 事業継続	公園遊具は主に子どもたちが利用するものであり、安全は不可欠で不備の早期発見、改善に必要な業務である。
2次評価	所属長	C. 事業継続	安全確保の観点から遊具点検は、法律で義務付されており、継続して実施する必要がある。
3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	公園占用・行為許可事務		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5)主担当者区分		主事
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		野木町都市公園条例			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	公園占用物等の許可申請を受付し内容を精査し許可する。 ①占用許可・協議申請書等の受理 ②占用物件・期間等内容審査 ③占用料納入書の発布等 上記事務の適正処理を行う。また行政財産使用許可についても同様に処理する。 公園行為許可については、内容を精査し許可する。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計		予算科目	款	項	目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	308	298	296	296	296
	事業費等		千円	0	0	0	0	0
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円					
	人件費		千円×人役	308	298	296	296	296
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.05	5,968 × 0.05	5,920 × 0.05	5,920 × 0.05	5,920 × 0.05
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
公園占用・行為許可の申請書の受付及び許可書の発行	許可件数	件		40			34	

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
町内公園の健全な発達及び適切な管理が図られている。 また、占用料の収入により公園管理費の財源確保にも繋がっている。	収入金額	円	357,000	358,987	100.6	1,069,000	1,030,748	96.4

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	B. 一部結びつく	理由	総合計画上の直接的な位置づけはないが、レクリエーション等実施希望の利用者に適切に公園を利用していただくため、一部結びつくと考える。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	公園でのバーベキュー等の需要も増えており、利用者のニーズにも即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	A. 実施済み・できない	理由	公園という公共性の高い場所の許可なので、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	公園の利用者が対象なので公平性は高い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	公園は町民全体のもであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	公園でのバーベキュー等の需要も増えており、利用者のニーズにも即しており債権等の余地はない
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	公園でのバーベキュー等の需要も増えており、事業終了の可能性はない

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	無許可利用が抑制されるよう、周知徹底に努めていきたい。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	公園利用者の利便性を図るため継続実施していくものです。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	法定事務のため必要であるが、占用、行為の許可を行うにあたっては、他の利用や周辺の状況等を考慮したうえで慎重に行う必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	駅前広場噴水管理事務		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	生活環境の充実	(5)主担当者区分		主事
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等					

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	駅前広場噴水管理（高熱水費・噴水点検清掃業務）		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	2 項	1 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	2,113	2,037	1,860	1,132	1,992
	事業費等		千円	1,497	1,440	1,268	540	1,400
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	1,497	1,440	1,268	540	1,400
	人件費		千円×人役	616	597	592	592	592
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.10
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
巡回を行い、強風時の噴水停止及び故障等の確認を行う。								

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
故障等があった場合速やかに対処し、景観を保つ。								

4. 評価

（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評　価 C. あまり結びつかない	理由	総合計画上に位置づけられている事業ではない。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評　価 A. ニーズが増大している事業である	理由	駅利用者が噴水付近で休息でき、また夜間は噴水の照明により防犯の役割を担っているため、ニーズに即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評　価 A. 実施済み・できない	理由	噴水設備の維持管理・清掃は業者に委託している。一時的なゴミの対応はシルバーの巡回時に対応している。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評　価 A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評　価 A. 保たれている	理由	噴水を見るのは、駅利用者であるが、町の玄関口であることで町内外の様々な人の目にふれることになり公平である。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評　価 A. 妥当である	理由	駅の利用者が受益者ということになるので、妥当であると思われる。
（4）総合評価	事業再検討の余地	評　価 B. 再検討の余地はない	理由	駅利用者が噴水付近で休息でき、また夜間は噴水の照明により防犯の役割を担っているため、再検討の余地はない
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評　価 A. 事業終了の可能性はない	理由	駅利用者が噴水付近で休息でき、また夜間は噴水の照明により防犯の役割を担っているため、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	町の玄関口である駅前広場の景観の保持のためにも、噴水は通年で作動させていきたい。

（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評　価 C. 事業継続	今後の方向性 町の玄関口である駅前の景観の保持のため継続して実施していきたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 駅前広場の中心施設で、水と触れ合える憩いの場として親しまれていることから、継続する必要がある。
	3次評価	町長	評　価 	今後の方向性

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	公園清掃管理委託事務（自治会等委託）		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5)主担当者区分		主事
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		地方自治法・都市公園法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	地域の公園清掃管理団体との連携を図り、継続して協力団体に安価ではあるが、委託料を支払い実施していく。都市公園15箇所　その他の公園32箇所		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010　一般会計	予算科目	7　款	2　項	1　目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	2,549	2,531	2,521	2,521	2,521
	事業費等		千円	1,317	1,337	1,337	1,337	1,337
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	1,317	1,337	1,337	1,337	1,337
	人件費		千円×人役	1,232	1,194	1,184	1,184	1,184
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
都市公園、その他の公園について地元の協力団体に清掃、除草等を委託する。	公園数	箇所	58	41	70.7	58	41	70.7

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
快適な公園の維持管理ができた。地元の協力団体と良好な関係を築け、清掃等をお願いすることにより、町の経費を削減する。	協力団体	団体	35	31	88.6	35	31	88.6

4. 評価

（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評　価 A. 結びつく	理由	既存の公園について、地域の方々に清掃活動をしていただくことで、過ごしやすい公園の維持ができる。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評　価 A. ニーズが増大している事業である	理由	公園利用のニーズは高まっており、地域において清掃等を行い、良好な環境が維持されているので、町民のニーズに即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評　価 A. 実施済み・できない	理由	すでに地域の団体と協力して事業を実施している。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評　価 A. 現状が望ましい	理由	すでに地域の団体と協力して事業を実施しているためこれ以上の連携等は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評　価 A. 保たれている	理由	利用する全ての方が快適に過ごせるようにするための事業なので公平性は保たれていると思われる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評　価 A. 妥当である	理由	公園は町民全体のもであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	評　価 B. 再検討の余地はない	理由	公園利用のニーズは高まっており、地域において清掃等を行っているので再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評　価 A. 事業終了の可能性はない	理由	公園利用のニーズは高まっており、地域において清掃等を行っているので事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	地域の団体の協力を得ることにより、地域の方々が地域活動へ参加することや地域の公園に愛着を持つことに繋がっている。今後も協力団体と密に連携を図りながら、公園の景観や環境整備に繋げていきたい。

（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評　価 C. 事業継続	今後の方向性 公園管理を地域に委託する事務で今後も必要である。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 地域の方が公園に愛着を持ち、管理活動にご協力いただいているものであるため、継続が必要である。
	3次評価	町長	評　価 	今後の方向性

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	ドッグラン管理事務		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	都市計画の推進	(5)主担当者区分		主事
	施策	都市的環境の充実	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		都市公園条例			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者・その他	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全かつ快適に過ごせるドッグラン施設の維持管理をする。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	2 項	1 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	267	407	492	552	552
	事業費等		千円	144	288	374	434	434
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	144	288	374	434	434
	人件費		千円×人役	123	119	118	118	118
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.02	5,968 × 0.02	5,920 × 0.02	5,920 × 0.02	5,920 × 0.02
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
ドッグランを適切に維持管理するため、ボランティアの方に適正な利用方法の指導を行っていただく。 シルバーに週1回の掃除を委託する。	開場日数	日	300	300	100.0	300	321	107.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
ドッグランを適切に維持管理することができた。	清掃回数（週）	回	1	1	100.0	1	1	100.0

4. 評価

		評　価	理由	
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく		ドッグランを適切に管理することにより、快適に利用していただくことができるので、目標に結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である		ドッグランのニーズは高まっており、即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	A. 実施済み・できない		すでにボランティアと協力して事業を実施している。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい		すでにボランティアと協力して事業を実施しているためこれ以上の連携等は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	B. 概ね保たれている		利用者が愛犬家に限られているので、受益者は多少偏りがある。しかし近隣にドッグランを有している公園がないため広く活用され利用者も増加している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である		利用者が愛犬家に限られているので、受益者は多少偏りがある。しかし近隣にドッグランを有している公園がないため広く活用され利用者も増加しているので妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない		ドッグランのニーズは高まっており、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない		ドッグランのニーズは高まっており、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	ボランティアの方々と意見交換の場を増やしていく。

（2）評価・今後の方針			評　価	今後の方向性
	1次評価	担当係長	C. 事業継続	ドッグランの維持管理のために必要な事業である。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	清掃等を定期的に行うなど適正管理していく必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	路面清掃業務事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5)主担当者区分		主事
	施策	道路の整備	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		道路法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者・その他	実施期間	～
	事業内容	全ての利用者が、安全かつ快適に通行、利用できるよう町道部分の路面清掃、雨水排水管の清掃を行う。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	2 項	1 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	9,647	8,124	8,210	6,476	8,184
	事業費等		千円	8,415	6,930	7,026	5,292	7,000
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	8,415	6,930	7,026	5,292	7,000
	人件費		千円×人役	1,232	1,194	1,184	1,184	1,184
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
業者による路面清掃及びシルバー人材センターに道路清掃・管渠清掃の委託	清掃回数(年)	件	2	2	100.0	2	2	100.0
	清掃延長	km	30	30	100.0	30	30	100.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
路面をきれいにすることで道路の美観も保たれた。 また幹線道路の管渠を清掃することで雨水排水対策の効果も見られた。	排水溝のつまりによる冠水	件	0	0		0	0	
	景観上の苦情	件	0	0		0	0	

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美観の観点からも目標に結びつくと考えます。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美観の観点からも、町民のニーズに即していると考えます。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	町道の公共性の高さから、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	主に幹線道路の清掃なので、受益者の偏りはない。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	道路は町民全体のもであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美観の観点からも、事業の再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	幹線道路の雨水対策及び道路の美観の観点からも、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	出水期前はこまめに排水管の清掃を行い幹線道路の冠水を防ぐ。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	幹線道路の清掃は必要であり、継続すべきである。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	道路の飛び石、排水管のつまり、二輪車のスリップ対策としても必要なものであり、継続的な実施が必要である。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	街路樹管理事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	花いっぱい・水と緑のまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	花と緑いっぱい運動	(5)主担当者区分		主事
	施策	緑化活動の推進	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等	道路法				

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者・その他	実施期間	～
	事業内容	町道の街路樹を適正に管理し、町の景観の美化をはかり、本町を訪れる人々に季節を感じさせられるように良好な保全に努める。 ①街路樹管理業務委託発注等 ②樹木管理指導等 ③薬剤防除の発注・時期の選定 ④緑の適正保全		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	1 目
区分		単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額	千円	34,012	31,594	32,902	22,588	31,592
	事業費等	千円	33,396	30,997	32,310	21,700	31,000
	財源内訳 国支出金	千円					
	財源内訳 県支出金	千円					
	財源内訳 地方債	千円					
	財源内訳 その他	千円					
	財源内訳 一般財源	千円	33,396	30,997	32,310	21,700	31,000
	人件費	千円×人役	616	597	592	888	592
	正規職員	千円×人役	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	5,920 × 0.15	5,920 × 0.10
	正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
街路樹の維持管理を実施 ①剪定等業務を発注する ②薬剤防除2～3回／年 ③その他草取り等実施	中高木剪定	本	1,300	541	41.6	1,300	695	53.5
	低木剪定	㎡	9,829	9,829	100.0	9,829	9,829	100.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
街路樹を適切に管理することにより、良好な緑地の環境が保たれた。								

4. 評価

		評　価	理由	
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	A. 結びつく	理由	事業の実施に伴い緑豊かな環境につながるものであり、総合計画の目標に結びつく事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	事業の実施に伴い緑豊かな環境につながるものであり、町民のニーズに即した事業である。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	道路同様の瑕疵問題等も生じてくるものであるので、行政主体で行うことが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	適正に、街路樹の状況を判断した上で環境整備を進めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	街路樹は町民全体のもであり妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	事業の実施に伴い緑豊かな環境につながるものであり、町民のニーズに即した事業であり、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	事業の実施に伴い緑豊かな環境につながるものであり、町民のニーズに即した事業であり、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	職員で作業できるところは、職員で行うことによりコストの削減を図れる。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	街路樹の剪定、薬剤散布は必要である。街路樹にもよるが、樹木の根により、歩道を傷め、補修に費用がかかるので、街路樹の選定、植栽には慎重な対応が必要である。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	年数を経た街路樹の一部については、強風などで倒れる可能性を踏まえ伐採したものもあるが、その他の街路樹については、維持管理を継続する必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	街路灯維持管理事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5)主担当者区分		主事
	施策	道路の整備	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		道路法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者・その他	実施期間	～
	事業内容	利用者が安全かつ快適に通行・利用できる道路として、設置されている街路灯の維持管理を行う。 水銀灯からナトリウム等へ切り替えて、低消費電力化に努めている。今後も継続して節電に努めていく。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	2 項	1 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	18,515	15,100	15,994	11,284	11,284
	事業費等		千円	17,283	13,906	14,810	10,100	10,100
	財源内訳	国支出金	千円	2,300	2,000	1,800		
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	14,983	11,906	13,010	10,100	10,100
	人件費		千円×人役	1,232	1,194	1,184	1,184	1,184
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
業者に確認巡回及び交換業務を委託している。 また係員による危険箇所の確認を実施している。	街路灯点検数	箇所	304	304	100.0	312	312	100.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
球切れ等をいち早く発見し、道路の安全を確保することができた。	街路灯機器修繕	箇所		4			15	
	ランプ交換	箇所		41			39	

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	B. 一部結びつく	理由	総合計画上の直接的な位置づけはないが、道路利用者の安全かつ快適な道路利用に繋がる事業として一部結びつきがあると考える。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	道路の安全を確保するため必要な事業であり、町民のニーズに即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	街路灯は公共性が高く、安全上必要なものであるため行政主体が望ましい
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	A. 保たれている	理由	町内の全街路灯が対象であり、特定の人の利益のための施設ではないため公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	町内の全街路灯が対象であり、特定の人の利益のための施設ではないため受益者負担割合は妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	道路の安全を確保するため必要な事業であり、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	道路の安全を確保するため必要な事業であり、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	今後はLED灯への交換を進めていく。

			評　価	今後の方向性
（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	C. 事業継続	道路の安全を確保するため必要な事業であり、今後も必要である。
	2次評価	所属長	C. 事業継続	経費節減を念頭に維持管理していく必要がある。
	3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	町営住宅維持管理事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	生活環境の充実	(5)主担当者区分		主事
	施策	生活環境の整備	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		公営住宅法・町営住宅設置及び管理条例・施行規則			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	町営住宅利用者	実施期間	～
	事業内容	入居者が安全で安心な生活ができるよう施設の維持管理をする。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	2 款	8 項	2 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	1,528	2,180	1,437	1,514	1,514
	事業費等		千円	296	986	253	330	330
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	296	986	253	330	330
	人件費		千円×人役	1,232	1,194	1,184	1,184	1,184
	正規職員		千円×人役	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20
	正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
	その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
入居者の生活の安定と向上を目指し、住環境の維持管理に努める。	入居戸数	戸	6	6	100.0	6	6	100.0
	入居者数	人	10	10	100.0	10	10	100.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
町営住宅の築年数が30年を超えたため、設備の維持管理や修繕等を行い、入居者の安心・安全な生活を支えている。								

4. 評価

		評　価		
（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	C. あまり結びつかない	理由	総合計画に結びつく事業ではない。
	町民のニーズに即した事務・事業か	A. ニーズが増大している事業である	理由	町有建築物である町営住宅については、入居者から適正な維持管理が求められている。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	B. 行政主体が望ましい	理由	町営住宅であるので行政が直接管理することが望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	A. 現状が望ましい	理由	統合や連携は難しく、コストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	C. 偏っている	理由	入居者が限られている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	A. 妥当である	理由	入居者が限られており、低額な家賃が設定されているため。
（4）総合評価	事業再検討の余地	B. 再検討の余地はない	理由	町有建築物である町営住宅については、入居者から適正な維持管理が求められており、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	A. 事業終了の可能性はない	理由	町有建築物である町営住宅については、入居者から適正な維持管理が求められており、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	今後は全面的な改修又は建替えが必要になってくる。

（2）評価・今後の方針		評　価	今後の方向性
1次評価	担当係長	C. 事業継続	施設の維持管理に必要な事務であり継続する必要がある。
2次評価	所属長	C. 事業継続	長く使用できるよう適切に維持管理していく必要がある。
3次評価	町長		

平成31年度　野木町総合計画進行管理　兼　事務事業評価シート（平成30年度実績分）

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	道路・河川愛護事務		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画施策体系における位置づけ	施策体系	行政基盤の安定	(4)担当部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	施設保全係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5)主担当者区分		主事
	施策	道路の整備	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則・要綱等		道路法・河川法			

2. 事業内容・投入コスト

(1)事業内容	事業の対象になる相手方	野木在住・在勤者	実施期間	～
	事業内容	7月の「河川愛護月間」、8月の「道路ふれあい月間」の期間中、自主的な道路・河川愛護活動を通して、生活に欠かせない道路・河川への愛着を深める。 つねにきれいに安全に利用するため、ゴミ拾い、草刈、小枝切り等の美化活動を行う。		
	前年度から改善した点			

(2)投入コスト

会計	010 一般会計	予算科目	7 款	2 項	1 目

区分			単位	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	平成31年度（見込み）	令和2年度（見込み）
事業費	コスト総額		千円	1,840	1,802	1,792	1,792	1,792
	事業費等		千円	608	608	608	608	608
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	608	608	608	608	608
	人件費		千円×人役	1,232	1,194	1,184	1,184	1,184
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20	5,920 × 0.20
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×	357 ×
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1)活動指標

事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
道路・河川愛護については他市町にくらべても積極的な活動をしている。	回収したゴミの量（道路）	kg	5,000	5,300	106.0	5,000	5,400	108.0
	回収したゴミの量（河川）	kg	100	100	100.0	100	99	99.0

(2)成果指標

事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成29年度 目標	平成29年度 実績	平成29年度 達成度(%)	平成30年度 目標	平成30年度 実績	平成30年度 達成度(%)
町民の皆さんにゴミ拾い、草刈、小枝切り等の美化活動をとおして、道路・河川の愛着を深めてもらう。	参加人数（道路）	人	5,000	5,500	110.0	5,000	5,321	106.4
	参加人数（河川）	人	200	200	100.0	200	250	125.0

4. 評価

（1）必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評　価 A. 結びつく	理由	道路・河川の愛護、美化活動をとおして環境の整備に結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評　価 A. ニーズが増大している事業である	理由	道路・河川の愛護、美化活動は町民のニーズに即している。
（2）効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評　価 B. 行政主体が望ましい	理由	行政主体で、地元の協力得る現在の形が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評　価 A. 現状が望ましい	理由	すでに地元と連携して行っておりこれ以上のコストの削減は難しい。
（3）公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評　価 A. 保たれている	理由	町内全域において協力をいただいているので、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評　価 A. 妥当である	理由	町内全域で行っている事業なので、妥当である。
（4）総合評価	事業再検討の余地	評　価 B. 再検討の余地はない	理由	道路・河川の愛護、美化活動は必要な事業であり、地元の協力を得て行っている事業であり、再検討の余地はない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評　価 A. 事業終了の可能性はない	理由	道路・河川の愛護、美化活動は必要な事業であり、事業終了の可能性はない。

5. 今後の課題・方向性

（1）改善点	主担当者	地元の皆様への周知を徹底する。

（2）評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評　価 C. 事業継続	今後の方向性 道路・河川のより良い環境を築くためにも必要な事業である。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 河川愛護月間は7月、道路ふれあい月間」は8月であるが、猛暑日の増加、参加者の高齢化を踏まえ、地域の方々が参加しやすい時期における愛護活動の継続が望まれる。
	3次評価	町長	評　価 	今後の方向性